



(1) 「良心碑」(良心教育)

新島襄が、療養に励む東京から一学生に送った手紙の一節が、自筆の書体を拡大して刻まれている碑。原文は「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」。同志社教育の真髄を示す「良心教育」という言葉はこれに由来する。



(2) クリエイティブ・ジャパン科目

日本の伝統、文化、芸術への高い関心を育み、「感性価値」の創造と受容の基礎となる力を身に付け、創造力を涵養することを目的とした新しい学び。「京都科目」「クールジャパン科目」「クリエイティブ・ジャパン科目」などから構成される。

これらを通して、「日本文化の魅力」「グローバルに受容される価値」について考察し、「京都から日本全国、そして世界へ」と広がる視野を養う。

(3) 英語教育の新カリキュラム

2022年度から新たな英語教育カリキュラムがスタート。これまで実施してきた習熟度別クラス編成を拡充し、1・2年次で履修するすべての英語科目を4つのレベルでクラス編成(CASECのスコアで判定)するとともに、さらなる少人数教育を進めていく。

(4) RLP (Residential Learning Program)

継志寮では、多様な背景を持つ学生が交流できること、地域に生活する住民の一員として地域に貢献することを期待し、「地域共生・地域創生」「ダイバーシティ」「サステナビリティ」の3つのテーマで構成した教育プログラム「RLP」を設けている。これまでRLPでは、「上京区を知ろう」「LGBTQとアート」などのテーマで講演やディスカッションが行われた。

継志寮には、多様な背景を持つ学生が交流できること、地域に生活する住民の一員として地域に貢献することを期待し、「地域共生・地域創生」「ダイバーシティ」「サステナビリティ」の3つのテーマで構成した教育プログラム「RLP」を設けている。これまでRLPでは、「上京区を知ろう」「LGBTQとアート」などのテーマで講演やディスカッションが行われた。



文系学部の拠点
— 今出川校地 —



理系・文理融合系を中心とした学部の拠点
— 京田辺校地 —

全14学部の学生を対象とした全学共通教養教育科目においてもさまざまな改革を進めています。「クリエイティブ・ジャパン科目」の設置や英語教育の新カリキュラムの構築などに加え、2022年度からは新たに「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」を開設。このプログラムは文系・理系を問わず、デジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能を身につけ、各自の専門分野での学修や社会生活でこれらを活用し、新たな価値

を創造できる人物を養成することを目的としています。具体的には、学部レベルでは3段階のプログラムで構成され、文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)に準拠した「DDASH-1」と、これらを含む「DDASH副専攻」が開講されました。「良心教育」に基づき、総合知を備えた次代のリーダーを養成する「同志社大学新島塾」

1.5年間の課外プログラムである「同志社大学新島塾」では、良心を手腕に物事の全体を見渡し、最善の方向に導くことができる人物の養成を目指します。そのため、文系と理系の垣根を越えた総合知を涵養された教育プログラムを展開。選抜された塾生は、課題図書を読むことで自身の学問分野にとらわれない幅広い教養を得て、異なる学部の塾生と議論

2021年9月、今出川キャンパスの近くに新学生寮「継志寮」を開設しました。継志寮は「国内学生と留学生が区別なく生活を共にし、学びあえる寮」を具現化し、単なる学生寮の域を超えた「教育寮」です。国内学生3名と留学生2名がリビングを共有するユニットで生活し、寮内で多文化共生を実現します(1フロア16ユニット、合計180室)。

「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」を全学共通教養教育科目として展開

2023年3月に執行行われた新島塾の修了式において、塾長を務める植木朝子学長は「大学での学びは『問い』に対する『解』を出すだけではなく、『問い』そのものを創り出すことが求められる。ある『問い』を立てたとしても、その意義や違い『問い』の立て方ができるのではないかと、苦悩する経験も数多くしたのではないかと、考えることの基本である『言葉』の大切さも学ばれたことだろう。対話の『言葉』は、他者への理解と共感のために使われるべきだが、時に『言葉』は人を排除し傷つけることもある。ぜひ、良心を胸に言葉を大切に扱う人であってほしい」と式辞を述べました。

2023年3月に執行行われた新島塾の修了式において、塾長を務める植木朝子学長は「大学での学びは『問い』に対する『解』を出すだけではなく、『問い』そのものを創り出すことが求められる。ある『問い』を立てたとしても、その意義や違い『問い』の立て方ができるのではないかと、苦悩する経験も数多くしたのではないかと、考えることの基本である『言葉』の大切さも学ばれたことだろう。対話の『言葉』は、他者への理解と共感のために使われるべきだが、時に『言葉』は人を排除し傷つけることもある。ぜひ、良心を胸に言葉を大切に扱う人であってほしい」と式辞を述べました。

2024年度からは新たな学年暦を導入します。通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、最初と最後の2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。オリエンテーション期間中に、履修科目登録に先立ち初回授業をオンデマンド受講することで、授業の内容を確認することができ、登録科目のミ



うえき ともこ
植木朝子学長
1990年お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業。博士(人文科学)(お茶の水女子大学)。同大学助手などを経て、2005年同志社大学文学部国文学科助教授、2007年同大学文学部国文学科教授。2017年から副学長。同年より教育支援機構長も務め、2020年4月から現職。専門は日本中世文学。

〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入 入学センター入学課 TEL 075-251-3210 <https://www.doshisha.ac.jp/>

新島襄が1875年に創立した同志社英学校を前身とする同志社大学。「一国の良心」ともいふべき人物の養成を志したのが教育の原点です。その「良心教育⁽¹⁾」は「キリスト教主義・自由主義・国際主義」を理念に掲げ、今日まで受け継がれてきました。「諸君ヨ人一人ハ大切ナリ」という新島の言葉に象徴されるように、植木朝子学長のもと、他者を理解し、その違いを新たな創造へ導くダイバーシティの推進に重点的に取り組んでいきます。

2022年度から開講された「同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)」では、今春新たに応用基礎レベルと副専攻が開始されました。また、2024年度からは新たな学年暦を導入。オンデマンド授業を活用することで、留学プログラムや課外活動など主体的に学ぶ機会の増加が期待されます。

同志社大学

ダイバーシティキャンパスを推進——。価値観の違いを新たな創造へ導くことができる。良心を手腕に運用する。人物を養成

「諸君ヨ人一人ハ大切ナリ」——。今出川校地新町キャンパスにある校舎の渡り廊下の壁に刻まれたこの言葉は、同志社の創立者・新島襄が1885年、同志社英学校創立10周年記念式典で述べた一節です。このとき欧米視察から帰国したばかりの新島は、自身の不在中に7人の学生が退学処分処せられたことへの深い悲しみの思いがこみ上げ、式辞の中で思わずそう語ったといひます。同志社の歴史を辿ると、幕末の激動の時代、日本の将来に憂いを抱いた新島襄が鎖国の禁を犯して渡米したことに始まります。約10年にわたるキリスト教の根付いた欧米社会に学んだ新島は、日本の近代化のためには教育から社会を変えなければならぬと確信。キリスト教主義に基づき、全人教育により、「一国の良心」とも謂ふべき人物の養成を志したのです。これが同志社教育の原点である「良心教育」です。

この志を受け継ぐ同志社大学は、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の3つの教育理念を今日まで貫いてきました。それは、徳育の価値判断の基準をキリスト教に置き、一人ひとりの学生を大切に、束縛せず、学生が自らを律しながらも自由に行動することを尊重し、大きな視野でものを考えることを重視するということ。これらは、キャンパス全体を包む学風となっています。植木朝子学長は、こう説明します。「『人一人ハ大切ナリ』という新島襄の言葉に象徴されるように、人の痛みと共に感じることができる人物を生まれて育つこと、これが本学の目指すべき確かな方向です。それは、多様性と寛容に満ちた環境のなかでこそ成り立つものです。一人ひとりの個性を大切に、ダイバーシティの視点と倫理観を持った人物を育てる教育に注力したいと思ひます。自身と異なる価値観や境遇を持つ他者を理解し、その違いを新たな創造へ導く力を育てるダイバーシティに関する教育の推進は、良心教育の実質化の一環ともなり得ると考えています」

2024年度からは新たな学年暦を導入します。通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、最初と最後の2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。オリエンテーション期間中に、履修科目登録に先立ち初回授業をオンデマンド受講することで、授業の内容を確認することができ、登録科目のミ